

「中国製造 2025」と華南の産業高度化

2017 年 9 月 21 日

< 第 1 回 >

「中国製造 2025」の関連動向

中国を製造強国に導く為のロードマップ、「中国製造 2025」の発表から 2 年が経過しました。この間、発展目標や基本方針に基づいた様々な関連政策が中央政府から打ち出され、既に一定の成果を挙げているとの見方もあります。

地方においても、各々の産業特性に合わせた取り組みが進められています。特に、世界有数の製造業集積拠点として知られる華南地域では「中国製造 2025」に関する独自の発展戦略や施策が実行に移され、官民一体で産業高度化に取り組む機運が高まりつつあります。

本レポートでは、華南地域を中心に産業高度化に関連する政策動向などについて複数回にわたって連載する予定です。初回となる本稿では、「中国製造 2025」に関するこれまでの動きを簡単に纏めます。

概要と関連政策

「中国製造 2025」は 2015 年 5 月に国務院から発表され、国内のみならず世界からも注目されてきました。省エネ自動車や産業用ロボット等 10 分野の発展を促すことにより、2025 年までにこれまでの「製造大国」から、技術力や開発力を伴う「製造強国」にモデルチェンジする構想で、イノベーション能力の向上・製造業と情報技術の融合・品質とブランド力の強化 などの実現を目標に掲げています(図表 1)。

図表 1: 「中国製造 2025」の概要

中長期目標	基本戦略	重点分野	推進方針・政策
<p>< 2025 年 > 世界の製造強国の 1 つに</p> <p>↓</p> <p>< 2035 年 > 世界の製造強国の中位に</p> <p>↓</p> <p>< 2049 年 > 世界の製造強国のトップクラスに</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション能力の向上 ・製造業と情報技術の融合 ・基盤能力の強化 ・品質向上・ブランド力強化 ・グリーン製造の推進 ・重点分野の発展推進 ・構造調整の推進 ・サービス型製造業/生産型サービス業の推進 ・国際化水準の向上 	(1) 次世代情報技術(IT)	<ul style="list-style-type: none"> ・体制改革の推進 ・公平な競争環境の整備 ・金融面の支援強化 ・財政・税制面の支援強化 ・人材育成体制の構築 ・中小零細企業の支援強化 ・製造業の対外開放の拡大 ・組織的な実施体制の構築
		(2) 高性能 NC 制御工作機械・ロボット	
		(3) 航空・宇宙用設備	
		(4) 海上設備及びハイテク船舶	
		(5) 先端軌道交通設備	
		(6) 省エネ・新エネ自動車	
		(7) 電力設備	
		(8) 農業設備	
		(9) 新素材	
		(10) バイオ医療	

出所) 中国国務院「国務院 中国製造 2025 の印刷・公布に関する通知」を基に作成

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は法律、規制、財務、投資、税務、会計上の助言を行うものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できると思われる資料に基づいて作成したものです。情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的、機械的、またはその他の手段を問わず、書面での事前同意なしに開示、複製または転送等することを禁じております。

図表2 「中国製造 2025」に関連する中央政府の支援策(抜粋)

時期	ポイント	規定名
2015年3月	製造業企業吸収合併への商業銀行による支援拡大	銀行業監督管理委員会「商業銀行合併貸付リスク管理ガイド」(銀監発[2015]5号)
2015年3月	技術力の高い設備に対する保険制度の構築	財政部・工業情報化部・保険業監督管理委員会「1台目重大技術設備保険補償メカニズム試行業務に関する通知」(財建[2015]19号)
2015年11月	企業所得税上の研究開発費の特別控除措置	財政部・国家税務総局「研究開発費用の税前特別控除に係る政策の改善に関する通知」(財税[2015]119号)
2016年2月	「中国製造 2025」関連産業への金融支援方針	中国人民銀行・発展改革委員会・工業情報化部・財政部・商務部・銀監会・証監会・保監会「工業安定成長構造調整収益向上に向けた金融面の支持に関する若干の意見」
2016年8月	装置産業の分野別規格標準化の推進	品質検査総局・工業情報化部・国家標準化委員会「装置製造業標準化と品質向上計画」(国質検標聯[2016]396号)
2016年10月	資本市場における製造業発展支援の強化	証監会「上場会社重大資産再編管理弁法(2016年修正)」(中国証券監督管理委員会令第127号)
2017年2月	「中国製造 2025」の実施ガイドライン	工業情報化部「1+X」計画体系
2017年3月	製造業の技術革新、モデルチェンジに対する金融サービスの強化	中国人民銀行・工業情報化部・銀監会・証監会・保監会「製造強国建設を金融面から支援することに関する指導意見」(銀発[2017]58号)
2017年7月	省級製造業イノベーションセンターの国家級イノベーションセンターへの昇格条件を明示	工業情報化部「省級製造業イノベーションセンターの国家級製造業イノベーションセンターへの昇格条件」工信庁科[2017]64号
2017年8月	「中国製造 2025」関連産業の基盤技術力の向上を支援	工業情報化部「2017 製造業モデル転換(中国製造 2025)重点プロジェクトガイド」工信部規函[2017]351号
2017年8月	外資参入制限の減少、財政・税制支援政策の制定	國務院「外資の成長促進に係る若干の措置に関する通知」(国発[2017]39号)

出所) 中央政府各省庁等ウェブサイト情報を基に作成

「中国製造 2025」の実現に向け、この2年間で、中央政府各部門は技術革新・金融支援・外資導入などの分野において具体的な取組方針を策定し実行に移しており、こうした支援策は「中国製造 2025」の戦略実現を側面から支援する機能を果たしています(図表2)。

このうち、工業情報化部が2017年2月に発表した「1+X」計画体系は「中国製造 2025」の実施ガイドラインに位置づけられています(図表3)。「1+X」計画体系の「1」は主計画の「中国製造 2025」を、「X」は11の付属計画(2つの実施ガイドライン、5大重点プロジェクト実施ガイドライン、4つの発展計画)を指し、中国が製造強国の実現に向けて今後強化すべき分野の政策指針を示したものです。特に、「5つの重点プロジェクト」は製造業の各業種を跨いだ技術課題の解決を目指すプロジェクトとしてその行方が注目されています。

図表3 「1+X」計画体系の構成内容

主計画	+	付属計画
中国製造 2025	実施ガイドライン	装置製造業の品質・ブランド
		サービス型製造業
	5大重点プロジェクト実施ガイドライン	国家級製造業イノベーションセンターの構築
		製造業の基盤強化
		スマート製造
		グリーン製造
		ハイエンド装置のイノベーション
	発展計画	新素材産業
		情報産業
		医薬産業
		製造業分野の人材育成

出所) 工業情報化部ウェブサイト情報を基に作成

進捗と課題

工業情報化部は2017年5月、初期的成果として「中国製造2025」で掲げられたプロジェクトの立ち上げ状況や技術力向上の実績等を発表。グランドデザインがほぼ完了したほか、製造業の基盤強化や品質・ブランド力・スマート製造水準の向上に進展がみられるとしています(図表4)。また、技術革新の成功例として、フレキシブル複合産業ロボットの開発成功やRV減速機、波動歯車減速機の量産実現を挙げています(図表5)。

一方、「中国製造2025」が直面する問題点として、マクロ経済環境の悪化、イノベーション手法の模索困難、地方政府による一部産業に対する過剰投資の懸念の3点を挙げており、課題解決に向けて「5大重点プロジェクト」の協力推進、パイロット都市(群)の拡大、重要プロジェクトの推進、製造業の環境改善、国際連携を推進していくとの意向を示しています。

パイロット都市(群)の選定

「中国製造2025」の全国展開に向けて、工業情報化部は「中国製造2025パイロット都市(群)」として20~30の都市(群)を選定する計画を立てています。現状、2016年8月に寧波市(浙江省)を第1号に選定したのを皮切りに、合計12都市と4都市群を選定(図表6)。各都市(群)に対しては、製造業の高度化及び品質向上を主軸に、それぞれの産業特性に合わせながら環境整備を進めるよう求めています。これに対し、各都市(群)はこうした分野で具体的な発展目標と明確なビジョンを示すことで、新型の製造業拠点を目指すとしています。

図表4 「中国製造2025」の推進状況

グランドデザインが完成 ・各方面の協働による政策体系の整備	イノベーション体系の推進 ・初の国家製造業イノベーションセンター(IC)として、動力電池ICが設立された。付加製造ICと産業ロボットICは建設中。
製造業の基盤強化が進展 ・基礎的な中核部品・素材、先端基礎技術等の課題が一部解決	品質、ブランド力の向上 ・原材料、重要装置等分野の製品品質が国際水準に接近
スマート製造水準の向上 ・重点分野デジタル化研究開発ツールの普及率、デジタル化生産設備オンライン率の著しい向上	試行モデル都市の選定 ・12都市と4つの都市群を中国製造2025試行モデル都市に選定

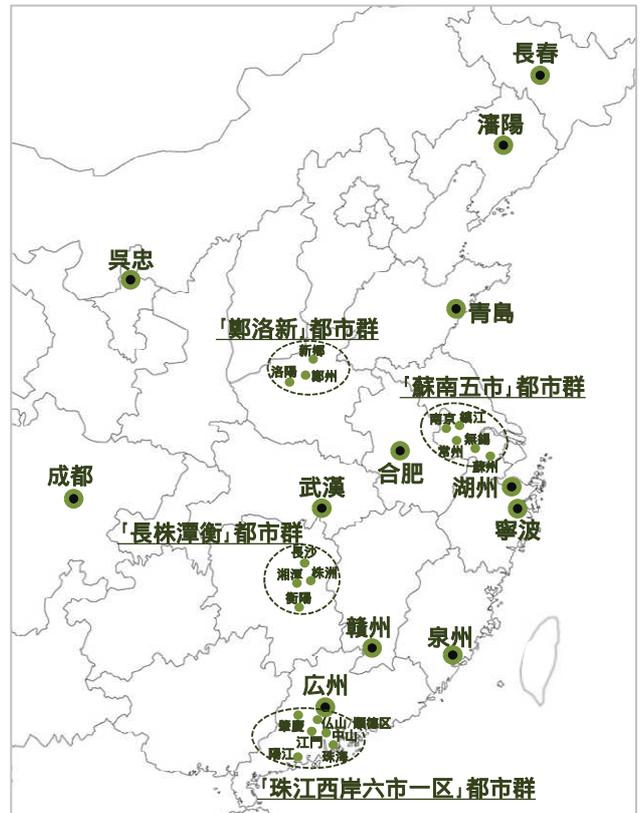
出所) 国務院新聞弁公室『中国製造2025の推進実施に関する発表会の開催』(2017年5月)を基に作成

図表5 「中国製造2025」に関連する技術革新の成功例

- 1) 中国初のフレキシブル複合産業ロボットの開発に成功、小規模量産を開始
- 2) RV減速機の量産を実現、海外より受注
- 3) 波動歯車減速機の量産を実現

出所) 工業情報化部『中国製造2025推進・実施状況の発表』(2017年3月)を基に作成

図表6 「中国製造2025」パイロット都市(群)



出所) 工業情報化部ウェブサイト情報を基に作成

華南地域については、珠江西岸の六市一区(珠海/佛山/中山/江門/陽江/肇慶/順徳区)が2016年9月にパイロット都市群、広州市が2017年4月にパイロット都市に選ばれています。現時点で広東省はパイロット都市の数が最も多い省となっていることから、中国の製造業発展における広東省の重要性が垣間見られます。

地方での動きでは、パイロット都市(群)の選定の他に、全国31省(自治区・直轄市)の殆どが各々の行動要綱や実施意見を制定・発表しています。華南地域では、東莞市が全国初の地域版「中国製造2025戦略」となる「東莞製造2025戦略」を2015年1月に発表し、スマート製造などの重点分野を強化する方針を打ち出した他、広東省・広州・深セン政府も独自の推進策を発表しています。今回は、「中国製造2025」に関連する華南地域の施策について説明します。

(執筆:株式会社三井住友銀行 コーポレート・アドバイザー本部 香港グループ)

本誌内容に関するご照会は、お取引店までご照会ください。